

「ほらほらあり♡
どうですかあり♡」

「船長があ…
お気に入り
の黒人チンポに
媚び散らかして
るところはあり♡」

「うっ……最高です…♡」



「そうですよねえ♡
だってキミイ…
粗チンの♡マゾ♡ですもんねえ♡」

「は…はい…っ…」





「はいとか言って…キモイんですけどおっ♡
顔真っ赤になってますよおっ?」

「船長が他人とシテるのが
そんなに好きなんですかねえ?」

「め…めちや好きです…!!
見せてくれてありがとございます…ッ!!」

「あはははっ♡
男としてのプライドとかあ
ないんですかキミィ♡」

「まあそういうところも
可愛いんですけどね♡」



「ていうかぁー……
ほーらほーら、もっとちんちん立てないと
船長のおでて味わえませんかよぉー？」

「う…っ…もう…
これ以上勃たないです…」

ググ…



「ええり？嘘でしょり？
船長じゃこれ以上興奮しないってことですかあ？」

「いやっ、そんなことは…！」

「わざわざこんなにおっぱい押し付けてあげてるんですよお？」
船長シヨックですう！」

「ス」

「ムニユフ♡ム」

「あの、興奮はしてるんですけど
…もうこれ以上勃たなくて…」

「あゝ…♡そっかそっか♡
君粗チンですもんねえ♡♡」

「う、うう…」



「はぁ、仕方ないですねえ♡」



「うっ…!!」

「ほおら、船長のやわらかおでて
どうですかあ〜?」

「き…きもちいいす…♡」



「鼻の下伸びすぎですよぉ♡
そんなに気持ちいいんですねえ♡」

「は…はい…♡」



「ダカラヨオ♡
タ↑ップリシヤブレヨナ♡」

「もちろんですう♡」





